

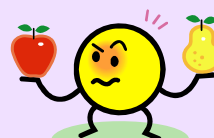
START方式のタグを使用した 院内トリアージ講習会

市立八幡浜総合病院 救急部1) 看護部2)

○川口久美1)2)

宮谷 理恵1)2)

越智 元郎1)



日本集団災害医学会

START方式のタグを使用した院内トリアージ講習会(抄録)

○川口久美、宮谷理恵、越智元郎

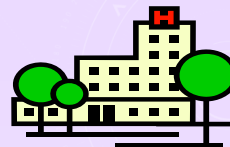
市立八幡浜総合病院 救急部

【背景】災害拠点病院である当院は年1回、病院を挙げて災害訓練を実施、また訓練前には、トリアージ、院内搬送、ゾーン立ち上げなどの事前講習会を開催している。今回、過去3回実施した、トリアージに関する事前講習会についてまとめたので、報告する。【方法】各回の訓練用タグは白黒及びカラーコピーで作成した。表はSTART法に沿って記載する形式で、平成26年度からは裏を継続トリアージの結果を記載できる形式とした。各講習会で使用したトリアージタグやプログラムの有効性、スタッフ・受講者へのアンケート結果などを分析し、その成果と課題を抽出した。

【結果】訓練用タグを自作することで安価に多数作成することができ、記入訓練を十分な回数繰り返すことができた。また、START方式で記載することにより、不慣れな職員の理解を促進することができた。課題として、勤務後に行う訓練としては長時間になったこと、医師参加が低率、治療ゾーンなどで実施する継続トリアージの実技訓練が未実施、などが上げられた。

【結論】災害訓練前に実施する講習会は有益であったが、訓練用タグやプログラムには改善の余地があり、受講勧誘の面でも課題が残った。

背景



災害拠点病院である当院は、年1回、病院を挙げて災害訓練を実施している。

また、訓練前の数か月間には、トリアージ、院内搬送、通信連絡、ゾーン立ち上げなどの**事前講習会**を開催している。

今回、平成24年度から開催した過去3回のトリアージに関する事前講習会についてまとめたので、報告する。

方法

平成24年から実施した、3回の講習会の実施した**プログラムの有効性**、使用した**トリアージタグ**や受講者に対して、**トリアージの理解度**や**講習会の有効性**についてアンケート調査を行い、**アンケート結果**を分析し、その成果と課題を抽出した。



トリアージ講習会の目的

- ◆当院では、医師数減少のため、時間外災害などで、**トリアージ担当に医師を配置できない可能性**がある。
- ◆地震・津波避難などの災害時、**院内各所で同時にトリアージ**を行う必要があり得る。
- ◆**トリアージ補助**を適切におこなうために、各職員がトリアージを理解しておく必要がある。

以上より、**看護師ほか各職種のトリアージおよびトリアージ補助能力を高めるため、本講習会を実施した。**

開催時間

平成24年度は、17時半から、全プログラムを90分で開催。
平成25年度からは、前半・後半に分けた、全2回を各1時間で実施した。

平成26年度の講習会プログラム

前半(1時間)

①トリアージ・スタート法の講義(各5分)

②机上訓練(30分)

タグ記載訓練(10分)

記載方法を説明後、進行係が想定内容を読み上げタグに記載する。

カテゴリー判定訓練(20分)

参加者が順に症例カードを読み、カテゴリーを宣言する。

③まとめ・質疑応答(10分)

後半(1時間)*1週間後に実施

①スタート法・タグの記載方法の講義(10分)

②シミュレーション訓練(15分ずつ2回)

模擬患者とトリアージ班に分かれて実施。

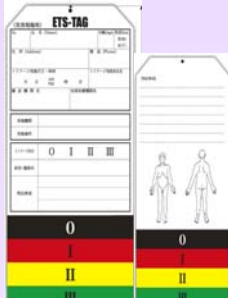
③まとめ・質疑応答(10分)



トリアージタグ

平成24年度

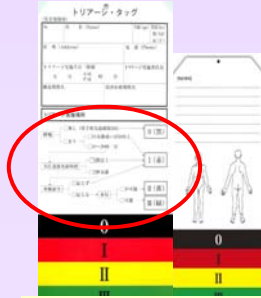
■標準形式の自作タグ
(講習会用)



START法の講義後の机上訓練では、白黒印刷したタグを使用。
シミュレーションでは、カラー印刷したタグを使用。

平成25年度

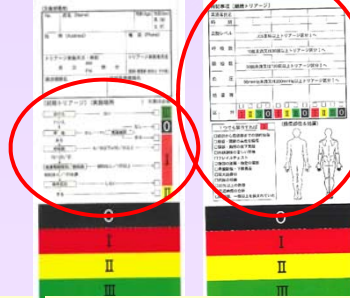
■START形式の自作タグ
(講習会用)



スタート法が覚えられないという意見から、START形式のタグを試作。
タグ下部のもぎり部分に合わせて、START法部分の記載項目は黒→赤→黄→緑の順に表示。
カテゴリー部分に、ミシン目の切り取り線を入れた。

平成26年度

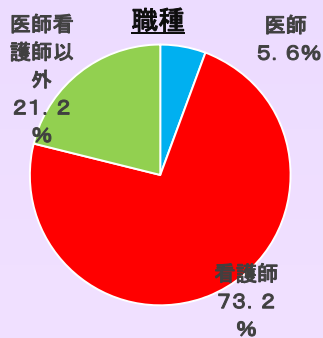
■START法と継続トリアージ入りの自作タグ(講習会用)



初期トリアージとしてSTART法トリアージの形式に合わせて、記載項目は、緑→黒→赤→黄の順に表示。
ウラ面を継続トリアージの結果を記載できる形式に。
PAT法による継続トリアージのデモンストレーションを展示。

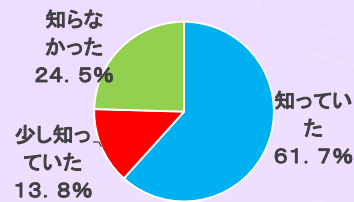
3回の講習会のアンケート結果①

* アンケートには受講者172人中167人、97.1%が回答。

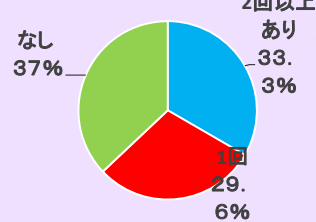


* 平成26年4月現在
総職員数319人
医師 23名
看護師 148名
准看護師 11名
その他 137名

START法を知っていましたか？



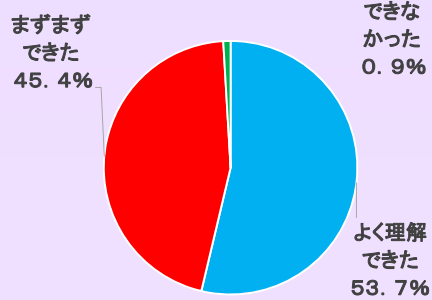
トリアージタグの記載経験



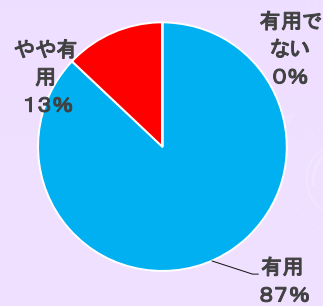
3回の講習会のアンケート結果②

* アンケートには受講者172人中167人、97.1%が回答。

記載方法について理解
できたか？



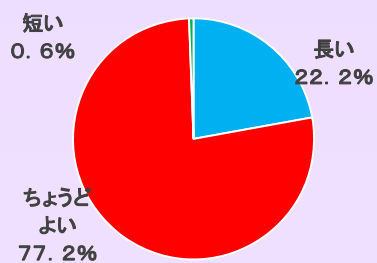
START法の評価を記入
できるタグは有用か？



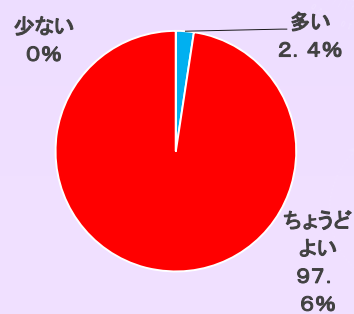
3回の講習会のアンケート結果③

* アンケートには受講者172人中167人、97.1%が回答。

講習会の時間



講習会の内容

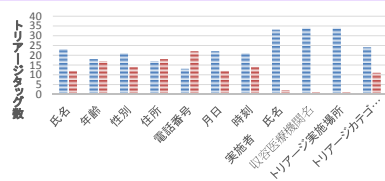


各年度のトライージ結果

各年度	タグの形式	オモテ面	ウラ面
24	標準形式	<ul style="list-style-type: none"> START法を確認しながら記載していたため、時間がかかっていた。 どの項目がカテゴリー評価につながるかの理解が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師看護師以外の参加者は、傷病名や観察項目を記載できず空欄が多かった。
25	START形式	<ul style="list-style-type: none"> START法に沿って実施するよう指導したが、タグの表示は、もぎり部分に合わせての表示としていたため、慎重に記載する参加者が多く時間がかかっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師看護師は、病名や症状などの記載ができた。 医師看護師以外の参加者は、医療用語や病名が分からず、記載に時間がかかった。
26	START形式と継続トライージ	<ul style="list-style-type: none"> START法に沿った表示としたため、スムーズにおこなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続トライージ記載欄とし、バイタルサインや傷病名などの記載法をデモンストレーションを見ながら確認した。

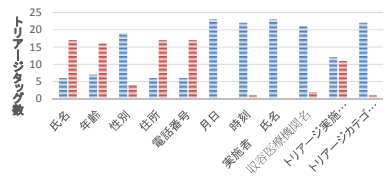
自作タグの使用結果

標準形式の自作タグ使用(平成24年)



標準形式の自作タグ	氏名	年齢	性別	住所	電話番号	月日	時刻	実施者氏名	収容医療機関名	トライージ実施場所	トライージカテゴリー
■ 記載	23	18	21	17	13	22	21	33	34	34	24
■ 未記載	12	17	14	18	22	12	14	2	1	1	11

START形式の自作タグ使用(平成26年)



START形式の自作タグ	氏名	年齢	性別	住所	電話番号	月日	時刻	実施者氏名	収容医療機関名	トライージ実施場所	トライージカテゴリー
■ 記載	6	7	19	6	6	23	22	23	21	12	22
■ 未記載	17	16	4	17	17	0	1	0	2	11	1

トライージ開始前に記載する、「月日」「実施者氏名」「収容医療機関名」は、記載できていたが、傷病者から聞き取る内容は、記載にバラツキがあった。

START法形式のタグでは、標準形式に比べて、トライージカテゴリーの記載ができていた。

考察

1. 訓練用タグを自作することで安価に多数作成することができ、記入訓練を回数制限せず実施できた。
2. 自作タグにSTART法を取り入れることで、職員のSTART方式に関する理解を促進することができた。
3. 項目別の記載内容にバラツキがあり。各項目の重要性についての理解不足。記載練習時間の不足も。
4. 以下の課題が指摘された。
 - イ) 勤務後に行う訓練としては長時間。
 - ロ) 医師の参加が少ない。
 - ハ) 治療ゾーンなどで実施する継続トリアージの実技訓練が未実施。

結論

1. トリアージ講習会は災害訓練前に実施する、項目別講習会として有益である。
2. 講習用トリアージタグを工夫することにより習得度が向上した。
3. 今後も安価な自作トリアージタグを用いて十分な訓練回数を確保し、職員のトリアージならびにトリアージ補助能力向上をはかりたい。